

【レポート】

越前市役所へ入庁して丸3年が経ちました。市役所に入ってからたくさんのことを経験しましたが、そんな時いつも自分を助けてくれたのは、業務外に行うボランティア活動や市民活動でした。いわゆる市役所の事務作業から抜け出して、地域で活動する。その先に見えるものや僕自身が気づいたことを紹介したいと思います。

市役所から飛び出してみよう！ — ボランティア・市民活動を仕事に生かす —

福井県本部／越前市職員組合 仲保 咲哉

1. 越前市役所に入ったきっかけ

僕がそもそも公務員を志したきっかけは両親でした。両親は県庁で林業に関わる仕事をしていて、幼少期から週末になると両親が働いている職場やイベントに遊びに行って近くで仕事をしている様子を見て育ちました。そして中学卒業に差し掛かったころには両親の背中を追って公務員になることを志していたのです。時間が経って、いざ就活を始めたのですがなかなか内定まで行かず、意気消沈していた時にたまたま見ていたインターネットで、越前市のボルガチョフこと波多野翼さんの記事と職員採用ポスターを見つけました。そこには市役所職員が自分たちで団体を立ち上げて活動する紹介や「個」として挑戦できることを応援してくれる風土があることなどが書かれており、とても感動し越前市役所で働きたいと強く思いました。この職員採用ポスターに載っているのは職員として採用された方々の前職時代の写真で、これだけ多種多様な人材を採用しているのも面白いなと感じました。そして無事採用されて現在に至ります。



越前市役所
業種：総合サービス業

検索 越前市



左：職員採用ポスター 右：波多野 翼さん

2. 活動との出会い

越前市役所に入庁してからは農政課に配属になり、コウノトリの個体管理や環境保全、協議会事務局員として経理全般といった業務を担当していました。採用試験を受けると決めたときに感じたキラキラ感とは裏腹に簡易的な業務をひたすらこなす日々。ここで僕は「思っていた仕事と違う！」よくある理想と現実のギャップにぶち当たります。日々を送っていく中で、仕事への熱量もどんどん落ちていきました。また、当時はコロナ禍真っ只中で交流の場も少なかったのも影響していました。このままではいけないと思っていた時に、職場の方から「福井LGBTQ+映画祭2021」というイベントの告知があり、LGBTQ+について当時知識がなかった僕は理解を深めるために参加することにしました。福井LGBTQ+映画祭はLGBTQ+（性的マイノリティの総称）を題材にした映画を午前・午後で上映するもので、2021年が初開催、2023年まで3年連続で開催しているイベントになっています。映画を自分と照らし合わせながら鑑賞していた僕は感動して気が付いたら涙が止まらなくなっていました。このイベントがきっかけで多様な性自認、性的指向の人々に対する理解者・支援者を意味する「ALL Y」（アライ）として何か活動して社会に貢献できないかなと思うようになりました。入庁して1年が経とうとしていた時、越前市でALL Yを広める市民団体を設立するという動きがあり、市内ではLGBTQ+に関する講演会が数回開催されていました。そこに参加した際に僕は勇気を出してALL Yの活動に参加することを決め、後に発足する「なろっさ！ ALL Yえちぜん」の立ち上げメンバーとして一歩を踏み出したのです。



左：当事の地方紙 右：映画祭チラシ

3. 活動の紹介

なろっさ！ ALL Yえちぜんでの活動は毎日が新鮮で、自分達で企画して活動する楽しさに気付くことができました。仕事ではなかなか得られない成功体験を重ねていくことで、なろっさ！ ALL Yえちぜんでの活動があるから仕事も頑張れる！ そう思えるようになり、自然とモチベーションも上がってきました。「仕事のモチベーションは仕事で上げる必要がない」「居場所は自分で作ればいい」と気づいた僕はどんどん活動の場を広げていきました。ここからは今までのなろっさ！ ALL Yえちぜんをはじめとした活動について紹介させていただきます。

(1) なろっさ！ ALLYえちぜん

① にじいろクリーンアップ

なろっさ！ ALLYえちぜんで初めて主催したイベントで、2022年度から継続して続けている活動です。虹色の物を身に着けて越前市で一番大きい武生中央公園のごみ拾いや遊具清掃を行いながら啓発活動を行います。地元企業である福井村田製作所の社員さんや市民の方を中心に例年多くの方々に参加していただいています。参加者の方にはなろっさ！ ALLYえちぜんの代表からALLYの写真は2024年度に実施した際の写真です。



② にじいろ写真撮影会

2022年10月1日に越前市が福井県内で初めてのパートナーシップ制度である「越前市パートナーシップ宣誓制度」を導入した記念になろっさ！ ALLYえちぜんで主催した事業です。当日はたくさんの方にお越しいただき、制度導入までの経緯についてのトークセッションを実施、プロフィール写真撮影会をするなどしてみんなで制度導入をお祝いしました。



左：集合写真 右：プロフィール写真

③ にじかべ

越前市役所 今立総合支所（あいばーく今立）が主催したイベントにお手伝いで参加しました。今立総合支所にある駐輪場の壁一面を越前市の伝統的工芸品である越前和紙を活用し、LGBTQ+の象徴である6色の虹色に装飾した取り組みです。越前市、越前市職員組合、なろっさ！ ALLYえちぜんが連携して作成しました。事業にかかった費用については越前市職員組合が負担。和紙であることを活用して地元高校生に直接メッセージを書いてもらう、LGBTQ+に関するアンケートも実施し、啓発を図りました。当時の地元地方紙でも大きく取り上げられ、とてもインパクトのあるイベントになりました。



左：当時の新聞記事 中：学生のメッセージ 右：にじかべで撮った写真

④ 展示活動、缶バッジワークショップ

越前市内で実施しているイベントに参加してブース展示等を定期的に開催しています。まずは「LGBTQ+の当事者が周りにいることを知ってもらい支援の輪を広げること」「誰もが誰かのALLY（理解者・支援者）になれることを知ってもらうこと」を根底において活動をしているので、幅広い年代の方に知ってもらえるよう試行錯誤しています。お子様連れの親御さんや学生をメインにした時は越前市最大のイベント「たけふ菊人形」にてお子様に塗り絵や缶バッジワークショップ、親御さんや学生にはLGBTQ+に関するアンケートを実施しました。また、年齢層が上の方にはまず知ってもらうために越前市にある金剛院というお寺のお祭りに参加していただき、寺院の中でLGBTQ+に関する啓発展示、越前和紙を活用した「にじばら」のワークショップ等を実施しました。



2023年10月にたけふ菊人形で行ったアンケートには80人近くの方に回答いただき、「LGBTQ（セクシャルマイノリティ）のことを知っていますか?」「パートナーシップ宣誓制度という制度があることを知っていますか?」という設問については半数以上の方が「はい」と回答したのに対し、「LGBTQ（セクシャルマイノリティ）が何の頭文字か知っていますか?」「ALLY（アライ）という言葉を知っていますか?」の設問に対しては「はい」の回答率が2割未満にとどまりました。結果を踏まえ、まだまだALLYの認知度は低いこと、継続的な活動の必要性を再確認しました。



上のにじばらワークショップと展示は2023年5月、下の缶バッジワークショップと展示は2024年5月に実施しました。本堂だとお祭りに来られた方だけでなく、参拝に来られるご高齢の方も多く見られ、にじばらワークショップにも参拝のついでに参加して作成したにじばらを喜んで持って帰られていたのが、とても印象的でした。対照的に缶バッジワークショップはお祭りに参加していた子どもさん、親子で来られた方が多く参加していました。缶バッジを持って帰ってもらう、つけてもらうことで次の啓発にも繋がるのが缶バッジワークショップのいいところだと思います。街中に神社、寺院が多い越前市だからこそ出来る取り組みです。

⑤ ファッションショーへの参加

越前市に本社があり有名ファッションブランド「axes femme」などを全国展開する株式会社I G Aが企画するファッションショーへ2022年から2年連続参加しています。地元高校生が服をデザインし商品開発するなど、学生の活躍も地元企業が後押しする環境があるのが素晴らしいと思いました。僕を含めなろっさ！ ALLYえちぜんのメンバーも自分らしく好きな服を着て啓発に取り組みました。



2022年度は「誰でも輝ける」をコンセプトにダイバーシティファッションショーとして地元学生や市内で活動する団体、外国人といった多種多様な参加者で会場を盛り上げました。越前市が共催しており、会場は越前市役所の庁舎前ひろばを使って行いました。まさか人生初ランウェイが市役所になるとは思わなかったですが、働いている身としては新鮮でとても楽しかったです。



2023年度は現在絶賛放送中の大河ドラマ「光る君へ」の放送前だったこともあり、和テイストの洋服製作や当日も和と洋の二種類のファッションショーが行われました。たけふ菊人形の期間中に催事場である「まさかりどんの館」を使って行い、たくさんの観客に見守られながらショーを楽しみました。誰でも参加できるフリーランウェイもあったので、年齢、国籍、性別を超えてタイトルになっている「Your Stage」のとおり、会場の方が一人ひとり楽しめるファッションショーになりました。

⑥ 各種イベントでの発表

なろっさ！ ALLYえちぜんは講演イベントにも積極的に参加しています。その中でも特に大きかったイベントである「親と子のリレーションシップほくりく2022inえちぜん」と「FUKUI S D G s A W A R D S 2023」の2つを紹介させていただきます。



上：イベントチラシ 左下：分科会の様子 右下：第6分科会メンバーで記念撮影

「親と子のリレーションシップほくりく2022inえちぜん」では「子どもが未来を描ける街へ」を全体テーマに第1～第7分科会に分かれて講演会とトークセッションを行いました。僕たちは第6分科会で「セクシャル・マイノリティなど性の多様性を考える」について話をしました。今回はせっかくの機会だったのでトークセッションのコーディネーターに立候補して運営にも関わらせていただきました。当事はなるっさ！ ALLYえちぜんが発足してまだ半年ほど、また初めてのコーディネーターだったのでとても緊張しましたが、写真左側のなるっさ！ ALLYえちぜん代表やパネラーのみなさんがサポートしてくれたおかげで無事分科会を終了することができました。トークセッションのタイムマネジメント、バランス良く話を振るなどやってみて初めて気づくことも多く、この時のコーディネーターの経験から「好奇心があることには積極的にチャレンジする」ことの大切さに気付かされました。



左：発表の様子 右：受賞後の集合写真

「FUKUI SDGs AWARDS 2023」は2030年SDGs達成に向けて、福井県の優れた取組を行っている個人・企業・団体等を表彰するイベントとして、越前市内にある仁愛大学が主催しています。選考委員会には福井県内で意欲的にSDGsに取り組んでいる自治体、NPO、教育機関、民間セクター等広範な関係者が関わっています。なるっさ！ ALLYえちぜんも今回「当事者だけが声をあげ続ける社会を変えるために、ALLYの輪を広げる」をタイトルにここまでの1年半ほどの活動をまとめてレポートを作成し応募しました。その結果学生、一般合わせて23団体32チームの応募があった中、最終審査会へ出場できる10団体に選ばれ、2024年2月11日に仁愛大学にて選考委員会ははじめ、他の審査会参加者の前で発表を行いました。発表は8分間だったのですが、僕は「メンバーの想い」ということで1分ほど自分が活動を始めたきっかけや「誰しもがマイノリティな部分を何かしら持っているから、誰もが誰かのALLYになれること」「ALLYになるにあたって何か特別なことをする必要はないこと」を伝えさせていただきました。発表後の講評では「活動の写真を見て、みんな笑顔があふれていて自分を出しているのがとてもいいと思った」「多様性やLGBTQ+はメディア（テレビ、SNS）などで十分認められてきている時代の中で、福井だとLGBTQ+に限らず人と違うことを揶揄される、地域性もありなかなか自分を出しづらいこと、若い人もそれで息苦しさを感じている中で、自分が自分らしく生きられるまちづくりの活動をしていることがいいと思った」などご意見をいただくことができました。最終結果として、一般団体としては2番目により「優秀賞」と団体賞として「越前市賞」をいただくことができました。当日の様子はYoutubeでライブ配信が行われ、会場だけでなくたくさんの方に活動を発信することができました。

※下線部分はFUKUI SDGs AWARDS 2023ホームページから引用

⑦ 他団体との連携

なるっさ！ ALLYえちぜんは他団体と共同で活動を行うこともあります。その中でいくつかの活動を紹介させていただきます。

ア サロン・ド・かずゑ

サロン・ド・かずゑはセクシャリティや性別に関係なく、来てくれた方々が繋がる、誰かの居場所になれば嬉しいなあの思いで、福井県出身でLGBTQ+のことについて発信している

Youtuberのかずえちゃんが2018年から不定期で主催しているイベントでなろっさ！ ALLY（いけだ・ふくい・さばえ・えちぜん）もスタッフとして運営をお手伝いしています。会場は福井市にある「クマゴローカフェ」で、時間貸しでカフェやバーを開催できる場所になっています。僕は趣味であるお菓子作りを生かしてサロンで提供するスイーツづくりも担当しました。



イ 福井LGBTQ映画祭の運営

先述でも紹介させていただいた映画祭の運営もなろっさ！ ALLYで行っています。僕は福井LGBTQ映画祭2023からスタッフとして参加しています。大人数で一つのイベントを運営するのも普段のなろっさ！ ALLYえちぜんの活動とは違ってやりがいがとても大きいです。また、イベントの運営などについて学べるのも仕事につながってくるので、とてもいい経験だと思います。



ウ 第14回地域再生大賞で優秀賞受賞

地域再生大賞は全国の地方新聞やNHK、一般社団法人共同通信社が主催し、2010年度からNPOなどの優れた活動を毎年度、表彰しています。秋に新聞社などが候補団体を推薦。選考委員の書類審査、現地調査やリモートヒアリングを経て、年明けに大賞、準大賞、特別賞、ブロック賞など各賞を決定します。なろっさ！ ALLYは第14回（2023年度）に東海・北陸ブロックで大賞候補団体として推薦を受けました。各団体（いけだ・ふくい・さばえ・えちぜん）の性の多様性の理解を深めるための取り組みが評価されたものでした。審査の結果優秀賞を受賞し、福井新聞社の本社にて表彰を受けました。先述したFUKUI SDGs AWARDS 2023と時期が一緒だったので、なろっさ！ ALLYえちぜんは優秀賞をダブル受賞する形となりました。取り組みの成果が認められる形となり、とてもうれしかったです。

※下線部は地域再生大賞ホームページから引用



(2) はっぴーすマイル隊

はっぴーすマイル隊は福井県坂井市を中心に活動するご当地アイドルヒーローの「はっぴーすマン」を中心に有志で活動をしています。団体を結成しているわけではないのですが、個人が隊員になっている形です。僕ははっぴーすマンの活動の中でも、福井県内でインスタグラマーをしている村上姉妹さんと共同で企画しているごみ拾い活動に興味を持ち、2023年2月頃から参加を始めました。約1年半で上はあわら市、下は敦賀市の気比の松原まで約20回のごみ拾いに参加しました。始めたときは新しいコミュニティで不安もありましたが、参加している皆さんが本当にいい方ばかりで、すぐに溶け込むことができました。ごみ拾い活動を始めてから「休みの日に朝早く外に出る」「行ったことのない場所で新しい発見や現場を知る」「新しい交流の輪が広まる、視野を広げる」などたくさん大切なことを学びました。また、活動の際にはならっさ! ALLYえちぜんの事をごみ拾い活動の参加者にPRするなど自分が行っている他の活動についても種まきとして啓発を行っています。職場の環境だけではどうしても狭い視野になってしまうので、自分の可能性を広げるためにも継続的に活動をしています。2023年10月には越前市のたけふ菊人形でごみ拾いするイベントと一緒に企画準備させていただき、たくさんの方に来ていただきました。終了後は親子で参加してくれた方が菊人形で遊んで帰ってくれるなど、ボランティア活動がきっかけで他の市のPRに繋げることができて本当に良かったです。



(3) 私設図書館つぐみの一棚オーナー

私設図書館つぐみは2022年4月29日に福井県鯖江市出身で書家・プレゼンテーションクリエイターとして活動されている前田鎌利さんを館長として鯖江市にある「市民交流センター つつじ」の中で始まった図書館です。図書館内には90の棚があり、その一棚を個人・団体が借りることで一棚オーナーとして自分の好きな本を置くことができる図書館になっています。また、オーナーになるとつぐみで実施するイベントを自分で企画・開催することも出来ます。1年ごとにオーナーが変わるので置いてある図書も一定ではないのが、つぐみが一般的な図書館と違う点です。僕が私設図書館つぐみの一棚オーナーになったきっかけはならっさ! ALLYえちぜん代表の藤田さんにつぐみで行っているイベントに誘

われたことと幼少期を過ごした鯖江市で何か活動ができないかと思ったことでした。僕はこれまで読書（活字を読むこと）があまり得意ではなかったので図書館からは距離が遠かったのですが、つぐみは本を通じてオーナーさん同士が繋がれて、イベントも開催しながらお互いに本を勧めて、他のオーナーさんの本を読むことで交流も出来る夢の詰まった図書館でした。そこで、2023年4月から一棚オーナーとして活動を始めました。たまに遊びに行った際に自分の本が貸し出されているのを見るととても嬉しい気持ちになるし、「本を通じた自己表現」として他の方に見てもらえるのがとてもいいなと思いました。つぐみは県内外に一棚オーナーがいて、年代から業種まで様々なのでオーナーの方が企画したイベントで占いをしてもらったり、パワーストーンブレスレットを作ったり、図書館なのを忘れてしまうほど異業種交流が図られているのも魅力の一つです。一定の人間関係ではつまらないと感じていた僕にとって、つぐみは大きな出来事でした。



4. 活動を通じて気づいたこと

初めは仕事のやる気が落ちてきたことから、一念発起して始めたボランティアや市民活動でしたが、いざ始めてみると勉強になることばかりでした。仕事だといざ人前で発表することになっても慣れていないとなかなかうまくいかないことが多いですが、講演会のコーディネーターや団体で発表した経験があるだけで、頼まれた時も自分から発表できるようになり、積極性が出せるようになりました。また、場所と人間関係を一定化しないことで視野が広がったから今まで気付かなかったような所で興味がわくようになり仕事が楽しくなりました。何よりボランティアや市民活動を始めたことで、「自分が一番自分らしくいれる」ことに気づけたのです。

5. そして……

入庁して4年目になった2024年、僕は農政課から人事異動することになりました。異動先は「市民協働課ダイバーシティ推進室」、担当業務は国際交流、多文化共生、人権擁護、男女共同参画、そしてLGBTに関すること。市民活動をしていたことがきっかけで、仕事でもチャレンジしてみたい！と思った僕はダイバーシティ推進室へ異動希望を出しました。その結果異動することができ、現在は市民団体で活動しながら行政担当として、日々「誰もが住みやすいまちづくり」をめざして奮闘中です。きっと市民活動をしていなかったら、今僕はダイバーシティ推進室にいなかったと思います。でも活動を通じて学んだ少しの勇気と行動力があればどうにでもなるし、相手にもくみ取ってもらえるとそう背中を押してくれた自分がいたのです。今は行政担当になってわかる難しさや団体にはない制限など試行錯誤していますが、僕にはたくさんの経験とたくさんの仲間がいるので、その想いを胸にこれからも仕事を頑張っていきたいと思っています！